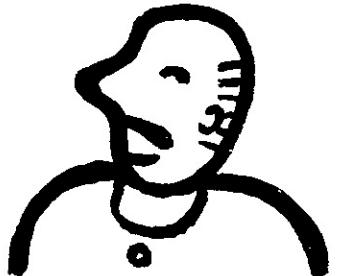




# おじいちゃんの独り言 (その2)

# 高木 清



## 万代町のにぎわい

大正九年白潟幼稚園入園。この頃旅館経営。客室わずか三室の商人宿として何とか經營していた。高等小学校卒業後、料理見習、統いて県教育会館食堂にて本格的フランス料理を修行。昭和九年徴兵検査。隣家髪結い宅を購入。客室七室となる。十八年結婚。十一年長男生まれる。十八年赤紙招集。終戦まで小倉陸軍病院衛生兵勤務。二十三年楽器店と旅館を併設。二十八年レストラン開店。旅館は廃業。楽器店は隣の長野家の店先で細々と営業。

五十六年までレストラン経営その後、前の家を四階鉄骨に改築。全館楽器店とし、今日に至る。種々時代の変遷と共に飲食組織も環境衛生組合組織設立。県下千六百業者を擁する組織をつくり、県理事長四期就任。全飲連副理事長も就任したが、五十六年病気のため廃業。

万代町は違った変遷を経て今日に至る。昭和十五年頃まで、力

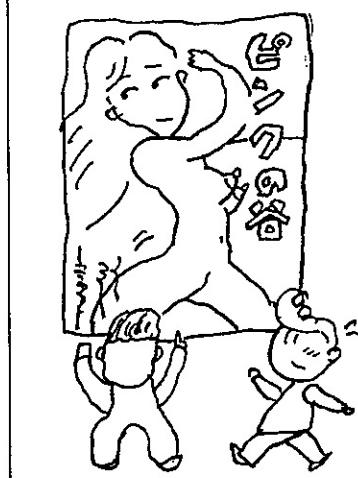
り巻くその境内は、穴道湖を背景に松江の中心歓楽街を形成していました。昭和十五年頃まで、力

フェー、喫茶店、茶屋、寿司屋、そば屋、映画館等、若い者にとっては松江で一番の歓楽街として、毎夜賑わいが続いていた。しかし、境内裏の宍道湖岸が埋め立てられ、すっかり水郷の情緒が失われてしまつた。その頃からパチンコ、映画が一般大衆の娯楽の中心となり、バーや飲み屋が集まつて自然発生的に万代町近辺に歓楽街を形成していった。私がレストランを開業し旅館を廃業したのもこの頃で、錦弘堂の錦織正幸氏が町内会長として活躍された町内裏通りは職人住宅が多数建ち青年の集いが生まれ竹葉会と称して町内会の下に日々貯金や金融、雪掻き、夜警、消防団を結成活躍し、どう行列等、強固な団結を誇り、松江で最も模範的な自治会活動をしていた。

商店会活動も最先端の街路灯をネオンで飾り、防空演習も県下で一番の活躍をし、N H Kが取材に来てラジオで流された。やがて大東亜戦争に突入し、戦後若人がいなくなり解散して終わった。

私も戦争中、町内に送迎用ブランケットをつくり、隊員五名を擁し活躍した。松江市内の同好者を集めて歌謡団をつくり、陸軍病院、出征軍人の留守家族宅慰問等に活躍した。

昭和27~28年頃のハイカラな駅通り商店街。



トワイライト  
ゾーン

## 万代町の子供達

町内に映画館やパチンコ屋さんが軒を連ねていた頃のお話。映画館の前は、当然ながら彼らの遊び場や登下校の通り道、集合場所になつていました。

ご他聞にもれず、映画館の前は今以上に賑やかで、ポスターはおろか、大きな看板などで色々とりどりの花盛りでした。もちろん、中には内容がピンク色の映画館もありました。

でも、親も子供も何の不思議も抵抗もなく暮らしていました。当時、民生委員であったN氏によれば、そんな環境を周辺の同僚や教育関係者は驚きの眼差しで見ていました。けれども、万代町で育った子供で、グレた子供は一人もいませんでした。